

# 令和元(2019)年度 病害虫発生予報 第5号

令和元(2019)年8月23日  
栃木県農業環境指導センター

## 高温による害虫の増加に注意しましょう！

予想期間 8月下旬～9月下旬 予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

### 1 大豆 ベと病

- (1) 発生予想 ・発生量：**平年並**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量は平年並（平年比71%：ほ場率、平年比48%：株率）。（±）  
・向こう1か月の平均気温は高く（-）、降水量は多い（+）見込み。  
・品種「里のほほえみ」は本病に罹病しやすい。（+）
- (3) 対 策 ・開花期から子実肥大期にランマンフロアブル、ベトファイター顆粒水和剤等を散布する。
- (4) 備 考 ・[植物防疫ニュース\(速報No.6\)](#)を当センターホームページ（HP）に掲載中。

### 2 大豆 吸実性カメムシ類

- (1) 発生予想 ・発生量：**平年並**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量はやや少ない（平年比54%：ほ場率、平年比33%：株率）。（-）  
・向こう1か月の平均気温は高い見込み。（+）
- (3) 対 策 ・開花期の15日後頃から、トレボン乳剤、スミチオン乳剤等を10～14日間隔で散布する。なお、子実肥大中期（9月上中旬）の吸汁害は、減収および品質低下が大きいため、9月も継続して防除を行う。

### 3 いちご 炭疽病

- (1) 発生予想 ・発生量：**平年並**
- (2) 根 拠 ・現在の発生ほ場率は平年並（平年比97%）。（±）  
・向こう1か月の平均気温は高い見込み。（+）
- (3) 対 策 ・水滴の飛散等で伝染するので、頭上かん水は避け、点滴チューブを用いるなどできるだけ水の跳ね返りのないかん水を行う。  
・風通しを良くするとともに、茎葉のぬれ時間が長くないよう、かん水はできるだけ晴天日の午前中に行い、曇雨天日や夕方のかん水を控える。  
・発病後の防除は困難なので、予防を主体にアントラコール顆粒水和剤等を散布する。  
・発病株や感染が疑われる株は早急に取り除き、ほ場外で適切に処分し、速やかにサンリット水和剤等を散布する。
- (4) 備 考 ・[植物防疫ニュース\(速報No.7\)](#)、[薬剤感受性検定結果\(QoI 剤\)](#)を当センターHPに掲載中。

### 4 いちご ハダニ類

- (1) 発生予想 ・発生量：**やや多い**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量は平年並（平年比83%：ほ場率、平年比58%：株率）。（±）  
・向こう1か月の平均気温は高い見込み。（+）
- (3) 対 策 ・雑草はハダニ類の発生源となるため、除草を徹底する。  
・苗による本ぼへの持ち込みを防ぐため、育苗での防除を徹底する。  
・育苗中は気門封鎖剤や天敵製剤を活用することで、作全体の化学農薬の散布回数を減らし、抵抗性の発達を抑制する。
- (4) 備 考 ・[薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

### 5 りんご 褐斑病

- (1) 発生予想 ・発生量：**多い**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量は多い（平年比2,000%：ほ場率、平年比1,400%：葉率）（+）
- (3) 対 策 ・罹病葉が確認されたら、トップジンM水和剤やベンレート水和剤等、治療効果の高い剤を使用する。複数回使用している場合は、耐性菌発生防止のため剤を変更する。
- (4) 備 考 ・[植物防疫ニュース\(速報No.8\)](#)を当センターHPに掲載中。

## 6 きく ハダニ類

- (1) 発生予想 ・発生量： **やや多い**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量は平年並（平年比 108%：ほ場率、平年比 90%：株率）。(±)  
・向こう1か月の平均気温は高い見込み。(+)
- (3) 対 策 ・薬剤がかかりやすい生育初期からの防除を行う。  
・葉裏をよく観察し、発生が認められたら下葉や葉裏にもよくかかるように丁寧に気門封鎖剤やスターマイトフロアブル等を散布する。
- (4) 備 考 ・ [薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

## 7 大豆・野菜類・花き類 ハスモンヨトウ

- (1) 発生予想 ・発生量： **やや多い**
- (2) 根 拠 ・8月第2半旬までのフェロモントラップへの成虫の誘殺数及び発生時期は平年並。(±)  
・向こう1か月の平均気温は高い見込み。(+)
- (3) 対 策 ・施設開口部に防虫ネット等を張り、侵入を防ぐ。  
・定期的にはほ場を観察して早期発見に努め、卵塊や分散前の幼虫を寄生葉とともに摘み取り処分する。  
・幼虫の齢期が進むと薬剤が効きにくくなるので、発生初期に薬剤を散布する。

## 8 大豆・野菜類・花き類 タバコガ類

- (1) 発生予想 ・発生量： **やや多い**
- (2) 根 拠 ・8月第2半旬までのフェロモントラップへの成虫の誘殺数及び発生時期は平年並。(±)  
・向こう1か月の平均気温は高い見込み。(+)
- (3) 対 策 ・植物組織内部に食入すると薬剤防除が困難になるため、発生初期に防除する。  
・施設栽培では、開口部に防虫ネット等を張り、侵入を防ぐ。  
・被害果実はほ場外に持ち出して適切に処分する。
- (4) 備 考 ・果実や花、頂芽などに寄生するため、防除が遅れると被害が大きくなる。寄生されやすい部位をこまめに観察する。

## 9 その他の病害虫

作物名	病害虫名	現況	発生予想	作物名	病害虫名	現況	発生予想
水稲	穂もち	平年並	<b>平年並</b>	なす	うどんこ病	少	<b>少</b>
水稲	紋枯病	平年並	<b>平年並</b>	ねぎ	黒斑病	やや多	<b>やや多</b>
大豆	紫斑病	—	<b>平年並</b>	ねぎ	アザミウマ類	平年並	<b>やや多</b>
いちご	うどんこ病	少	<b>やや少</b>				

### ○ トマト黄化葉巻病 (TYLCV) の防除対策

TYLCVはタバココナジラミによって媒介されます。夏秋トマトで黄化葉巻病が発生したほ場では、施設の蒸し込みを行うなど、残さに寄生している媒介虫を施設外に「出さない」対策を徹底しましょう。また収穫後の残さは適切に処分しましょう。詳しくは、[病害虫防除対策のポイント No.9 改訂版\(トマト黄化葉巻病\)](#)を当センターHPに掲載中。

○ 農薬は適正に管理し、容器のラベルをよく読み、正しく使いましょう。

○ 同一系統の薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布しましょう。

### 1か月気象予報（予報期間8月24日から9月23日 8月22日気象庁発表）

天気は数日の周期で変わるとでしょう。向こう1か月の平均気温は、高い確率50%です。

#### 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)

項目	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	20%	30%	<b>50%</b>
降水量	30%	30%	<b>40%</b>
日照時間	<b>40%</b>	30%	30%

詳しくは農業環境指導センター（Tel 028-626-3086）までお問合せください。

病害虫情報発表のお知らせはツイッター「[栃木県農政部 \(@tochigi\\_nousei\)](#)」、農業環境指導センターホームページ (<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/index.html>) でもご覧になれます。